

天文館図書館共催 連続トークイベント #昭和99 第6回

鹿児島が生んだミステリ評論家 中島河太郎

「鹿児島の近現代」教育研究センター 特任助教 鈴木 優作

2025年1月18日（日）、天文館図書館にて #昭和99トークイベント第6回「鹿児島が生んだミステリ評論家 中島河太郎」を開催した。

鹿児島市に生まれ旧制七高造士館を総代で卒業した中島は、戦後に書誌作成・辞典の編纂執筆・解説や評論の執筆と探偵小説史に多大な貢献を果たしたが、一般に作家に注目が集まりがちのため改めて評価する余地が大きい。本イベントではまず中島の経歴、次いで国文学者・民俗学者・教育者としての側面、また『探偵新聞』『黄色の部屋』『探偵小説年鑑』『探偵小説辞典』『日本推理小説史』といった探偵小説・推理小説に関わる業績を辿った。次に江戸川乱歩との関係から探偵小説史の構築者としての役割を振り返り、文学史は作家のみによって成立するのではなく作家・作品を批評し整理する視点があって初めて成り立つことを論じた。そして、鹿児島についての随筆から中島の故郷への愛着心について述べた。さらに七高文芸部の雑誌『啓明』への寄稿などから小説・民俗学・短歌・俳句といった中島の多彩な文才について一次資料を提示して紹介した。最後に中島の90年代における発言を取り上げ、社会派推理小説やその後の推理小説界にはキャラクター性のある名探偵が欠けていること、名探偵の待望を唱えていたことに触れた。

会場は先着40名のところ当日参加を含めてほぼ満席となり、質疑応答も数多く交わされた。中島の再評価は、鹿児島出身の文学者の評価であると同時に、作家に偏重しがちな文学史における評論家・書誌学者の重要性の再認識に繋がると考えられる。

なお本イベントの開催にあたり中島河太郎の子息・中嶋淑人氏に資料提供をはじめとして多大なご支援を賜った。この場を借りて心より感謝を申し上げる。

